

コミュニケーション研修

(株) プレスタイム九州 代表取締役 米澤金作

日常業務を処理する過程で、すべての仕事に関わるのが関係者とのコミュニケーションである。日常業務での会話や定例会議は言うに及ばず、業務目標の設定に当たって上司部下膝を突き合わせての話し合い、朝礼や全体会議などでの指示や命令、指示や命令を実現するための動機づけのアプローチ、課題解決のために集めたメンバーを解決に向けて積極的な態度で参画させるための働きかけ…など、管理・監督者のコミュニケーションの発揮の仕方が適切かどうかの仕事の成果に大きく関わることになる。管理・監督者のコミュニケーションの質と量がまさに仕事の管理の質と成果の量にダイレクトに関わる時代ともいえる。

コミュニケーションの本質は何かということ「お互いが共通のものを分け合ってもつ」ということ。従って、良いコミュニケーションとは、例えば上司が部下に伝えたい情報が上司の伝えたいだけの質と量で部下に伝わることを意味し、その逆の流れもまた同様である。もしそうでなければ、コミュニケーションは行動としては試されたが十分に目的が達成された、つまりコミュニケートされたとはいえないことになる。業務を円滑に推し進めて目標を達成するためにはメンバー全員がお互いによいコミュニケーションを心掛ける必要がある。

研修では、(1) コミュニケーションとは何か (2) 対面でのコミュニケーション
カアップのための3つのスキル (3) 4つのレベルでの対応力 (4) アサーティブ
なやり取り…といった項目について事例研究やグループワーク等を通して学びを深めていただく。

日常業務の中で活用を是非お願いしたい。多くの方のご参加を希望します。



大学卒業後、(株)大分銀行入行。県内外の支店を経て、大和銀行(現りそな銀行)に出向。本部管理職を経験した後、営業店の支店長を歴任し大分銀行を定年退職。その後、建設資材商社及びOA機器販売会社の役員を経験。H18年に人材育成企業である当社(平成元年創業)を譲り受けて今日に至る。地元大分県をはじめ、長崎・佐世保・佐賀・熊本・福岡・北九州を中心に、官公庁から一般企業に至るまで様々な分野で研修を実施している。(※平成19年から平成29年まで長崎県立大学の非常勤講師としてキャリアデザイン講座を担当)
〈所属〉(株)大銀経済経営研究所客員研究員 大分県中小企業支援アドバイザー
大分県立別府支援学校評議員他